

4. 計画のロジックモデル



ロジックモデルとは、事業の立案や評価を行う際に用いられる枠組み・考え方の一つで、「こうしたら（活動の結果＝アウトプット）」「こうなった（結果から得た成果＝アウトカム）」という論理的な因果関係を順番に考えていき、ある計画が最終的に目指す目的を達成するまでの道筋を体系的に示すものです。

最終的に目指す目的を「最終アウトカム」とし、最終アウトカム実現のために達成したい目的を「中間アウトカム」、中間アウトカム実現のために達成したい目的を「初期アウトカム」として設定します。

基本理念	基本目標		基本施策	
いつまでも自分らしく暮らせる共生のまち 竜王	1	地域ぐるみの介護予防・健康づくりの推進	1	みんなで取り組み、誰もが参加しやすい介護予防の推進
	2		2	生きがいのある暮らしへの支援
	2	地域共生社会の実現と地域包括ケアシステムの深化・推進	1	包括的な相談支援体制の充実
	2		2	高齢者の尊厳の保持
	3		3	地域全体で取り組む認知症対策の充実（「共生」「予防」）
	4		4	地域の見守り・支え合いの推進
	5		5	高齢期の住まい方の支援
	3	高齢者と家族を支える支援体制の充実	1	介護サービスの充実と在宅生活への支援
	2		2	介護人材の確保・定着・育成
3		3	介護保険制度の適正・円滑な運営	

下の図は、左側（3ページ）に本計画の施策体系、右側（4ページ）に計画のロジックモデルを示しています。

本計画のロジックモデルは、本町が目指す「自分は幸せであると感じている人が多い」を最終アウトカムとして設定し、これを達成するために各基本目標で目指す主な成果を中間アウトカム、各基本施策で目指す主な成果を初期アウトカムとして設定しています。

初期アウトカム(本計画で目指す状態)

- 介護予防・健康づくりに意識して取り組んでいる人の割合上昇(ニーズ調査)
- 「歩くこと」を意識している人の割合上昇(ニーズ調査)
- 生きがいがある高齢者の割合上昇(ニーズ調査)
- 人生の最期をどう過ごしたいか(どんな医療や介護を受けたいか)を家族などと話し合ったことがある人の割合上昇(ニーズ調査)
- 事業所での虐待防止、身体拘束ゼロ研修に取り組んでいる事業所数増加
- 認知症の相談先を知っている人の割合上昇(ニーズ調査)
- 「たすけあいの合計点」が4点の人の割合上昇(ニーズ調査)
- 人生の最期を迎える場所を考えたことがない高齢者の割合低下(ニーズ調査)
- 「何かあった時に相談する相手」として地域包括支援センター・役場と答える人の割合上昇(ニーズ調査)
- 従業員が不足していると感じる事業所の割合低下(事業所調査)
- 災害・感染症に対応する事業継続計画(BCP)の見直しや職員研修会等を実施した事業所の割合(100%)

中間アウトカム

- 75～84歳の要介護認定率が全国平均以下
- 相談相手や相談先がある高齢者の割合上昇(ニーズ調査)
- 要介護状態の人の在宅率維持
- 介護のために仕事を辞めた人がいる割合低下(在宅介護実態調査)

最終アウトカム(2040年)

自分は幸せであると感じている人が多い(ニーズ調査)